

## ステップ 1

大項目	①コミュニケーションの基礎的能力
小項目	【2】相手を意識（注視）する
タイトル (教材名)	関わり遊び
目的 身につけてほしい力	指導者や友だちがいなくてできない遊びを通して、自分以外の人に関心を 持てるようにする。
教材の使用方法	<p><b>くすぐり遊び</b> 歌に緩急をつけたり、くすぐる場所をかえたりしながら、期待感を持って楽しむようにする。ただし、あまりやりすぎると不快になるので児童生徒の様子を見ながら取り組む。また、生活年齢を考慮し、同性の教員が行うことがのぞましい。触覚過敏など、触れられることが苦手な児童生徒もいるので注意する。</p> <p><b>シーツブランコ</b> 児童生徒が大きな布の上に寝転び、両端を指導者が持ってブランコのように動かす。揺れは左右だけでなく上下にしたり、緩急をつけたりする。怖さを感じる児童生徒もいるので注意する。</p> <p><b>シャボン玉</b> これは一人でもできる遊びだが、一人が吹いて一人が壊すという遊びが好きな児童生徒が多い。</p> <p><b>追いかっこ</b> 鬼ごっこはルールがあるので難しいが、追いかっこは単純なので取り組みやすい。ただ追いかけるだけではなく、鬼のお面をかぶったり待ち伏せしたりして驚かすなどするとより楽しめる。</p>
その他	<p>※どの遊びもアイコンタクトを送りながら取り組むことで、相手を意識する経験が積めるようにする。</p> <p>※あまり長く遊ぶのではなく、一人遊びの時間も保障すること。</p> <p>※遊びはあくまで楽しいものなので強要しないこと。</p>

## ステップ2

大項目	①コミュニケーションの基礎的能力
小項目	【2】相手を意識する
タイトル (教材名)	デカパンレース
目的 身につけてほしい力	相手の動きに合わせて活動することで、相手を意識する力を養う。
教材の概要	材料 大きめの布
材料 作り方 工夫点など	2人入れるようなデカパンを作成する。 ※はじめは大人と練習するため、大きめのほうが良い。 ※布を持つことが難しい児童生徒には、持ち手を付けたり紐を首からかけられるようにするなどの工夫をしておく。
画像	※縫う際は頑丈に縫っておく。
教材の使用法	<p>①指導者と一緒にデカパンに入り、コーンを回って帰ってくる。 (手を繋いだり、肩を組んだりして体が離れないようにする)</p> <p>②はじめは児童生徒のペースに合わせるが、徐々に指導者がペースをつくり(あえてスピードに緩急をつけたり、横道に逸れたりする)児童生徒にペースを合わせるように促す。</p> <p>③友だち同士で取り組む。 ※はじめはペースが同じ児童生徒でペアを作るが、徐々にペースが違う児童生徒でペアを組むようにする。</p> <p>チームで競争すると、より楽しむことができる。 急いでデカパンを着脱すると転倒につながるので指導者が横で見守る必要がある。</p>
その他	デカパンを作ることが難しい場合は、手繋ぎ走でも良い。ただし、デカパンを穿くことで活動が明確になったり、手を離しても体が離れなかったりする。衝動的な動きを自然に抑制したりすることができるので、留意することが望ましい。



### ステップ3

大項目	①コミュニケーションの基礎的能力
小項目	【2】相手を意識する
タイトル (教材名)	ボール運びゲーム
目的 身につけてほしい力	物を通して自分と相手と動きを合わせることで、相手の様子や行動に合わせる力を養う。
教材の概要	材料 長い棒×2 箱×1 運ぶもの×1 ゴールの籠(大き目の箱)
材料	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">荷台の作り方</div> 長い棒2本で箱を挟むように取り付ける。取り外しできるように箱にひも等を通して取り付けると良い。 <b>【使用する棒について】</b> 棒は細すぎても太すぎても持ちづらいので、児童生徒がしっかりと握れる太さにしておく。細い棒しかない場合は、持ち手の部分だけを太くする。 <b>【使用する箱について】</b> はじめは物が落ちづらいように深い箱にしておく。徐々に浅い箱にしていき、難易度を上げる。最終的には板でも良い。 <b>【運ぶものについて】</b> むいぐるみやおもちゃは興味を引きやすい。ボールは難易度が上がるので徐々に挑戦すると良い(運びづらく、落としたときに転がっていくので)。
作り方	
工夫点など	
画像	
教材の使用方法	二人一組で棒を持ち、ゴールまで物を運ぶ。ゴールに置いてある籠に物を入れ、再び戻ってくる。チームで対戦し、着順ではなく息が合っているかどうかで勝敗が決まるということを事前に伝えておく。
その他	荷台ではなく、布を使って運ぶとより難しくなる。 握る場所を明確にするために四隅をくくっておく、もしくは持ち手をつけておく。握る力が弱い児童生徒や、意欲が持ちづらい児童生徒には、荷台で取り組むほうが良い。

